

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400022		
法人名	社会福祉法人 高洋会		
事業所名	グループホームちやたん		
所在地	北谷町宮城1番793		
自己評価作成日	平成 30 年 1月 10日(水)	評価結果市町村受理日	平成30年 8月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4792400022-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 30 年 1月 31日(水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の出来ること、やりたいことを重視して日々のケアを行っている。洗濯や園芸など、毎日の日課として行ってもらうなどして、役割をもって日々過ごせるように支援している。以前に比べてイベントや活動する機会が増えており、利用者からも楽しく過ごせていると声が聴かれる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は複合施設の2階にグループホーム、1階にデイサービスと小規模多機能居宅介護サービスがあり、行事だけではなく日頃から交流を持っている。隣には大きな公園があり、事業所のベランダにも利用者からの希望でプランター菜園を作り、野菜などの収穫がたくさんできてデイサービスや小規模、グループホームの職員に販売して、翌年の苗木などを仕入れる資金となっている。認知症啓発のための「RUN伴」への参加や、キャラバンメイトの認知症サポーター養成講座、認知症に対する啓蒙活動が行われている。グループホームでは珍しく男性職員が多いため、園芸や、イベントの企画、力を必要とする業務がスムーズに行え、話し合いの場においても色々な意見が飛び交い活発である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について改めて検討することが無い。	理念が長くわかりにくいと指摘を受け、昨年度より見直しの検討を行ったが、そのまま継続となっている。理念に基づく支援を行えるよう職員と理念の共有、話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事ごとに地域の方々や余興などで参加してくれる。今年もRUN伴へ参加し、地域での活動へ参加している。	管理者がキャラバンメイトに登録しており、認知症サポーター養成講座の依頼があれば行っている。毎年RUN伴にも参加するなど地域活動に積極的に参加している。地域の清掃活動にも職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座に講師として管理者が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行えていないことがある。	運営推進会議は利用者、自治会長、行政、法人代表などのスケジュールを管理者が合わせて日程を決めているため、会議を開くことができない月もあった。会議では入所状況や活動状況、ヒヤリハット、事故等が報告されている。	運営推進会議を年6回確実に実行できるよう、日程を固定にするなどの工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の職員と連携して、相談に来た方などの対応を行っている。	月に1回は行政手続きなどで訪問している。運営推進会議で情報交換や相談をしている。行政主催の運動会に利用者も一緒に毎年参加している。町役場から入居希望等の相談に来た方の対応をおこなっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員研修などで身体拘束についての理解を深めている。	法人の身体拘束委員会が中心となって行う研修会や、マニュアルも整備されている。職員会議でも事例をもとに話し合い職員が共通認識を持てるようにしている。拘束は行わないと、入所時と状態変化時に家族ヘリスク等を理解できるまで説明し同意を得ている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会も行って防止に努めている。	虐待防止委員会があり、研修や勉強会を行い職員と虐待について共通認識を持てるように、職員会議以外でも何かあった場合は、そのつど話し合いの機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者がある。学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との面談を行い、説明を行い、不安解消に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については日々の中で、また家族が来所された際に、話を伺うようにし、要望等聞き出している。	利用者の意見等は、日頃のケアの中で把握し出来ることは職員と話し合い希望に沿えるようにしている。家族からの意見等は面会時や運営推進委員会時に聞き、要望にはできるだけ応えられるよう、苦情も職員全員へ申し送り共有できるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われる職員会議において、職員からの声を聴いて繁栄させるシステムがある。	毎月の会議等で職員からの意見を把握している。職員の意見から勤務体制を変更など柔軟な対応をしている。食事介助の時間をとるため役割分担や仕事の時間をずらすなど、職員と一緒に考え工夫している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時に休みの希望等を聞き、反映させるように努めている。資格取得により給与がアップする仕組みがある。	勤務シフトや希望休を取りやすくなるよう工夫している。資格や研修取得の支援があり、資格を取ることにより給料もアップするため、資格取得の勉強にモチベーションが上がっている。職員同士も協力しあって働きやすい職場環境を作っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等、受ける機会を確保するように努めているが、職員の配置上の問題により、なかなか受けさせることが出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北谷町内での連絡会に参加し、情報交換等を行っている。 又、法人内ではあるが他事業所合同の勉強会や、行事等のボランティアに参加するなどを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と面談し、困っていること等を聞き出すように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご家族と面談し、困っていること等を聞き出すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の面談で情報収集し、必要な支援を見極めるように努めているが、他のサービスを活用した事例はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗い物や掃除など、本人に出来ることを行ってもらい、職員の助けとなっている旨を常に声かけするように努めている。 又、利用者自ら積極的に手伝いを行うなどの行動も見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ面会の機会を増やしてもらよう声かけを行っている。 ご家族の来所時などに本人の様子を伝えて、問題があればご家族とともに考えるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通っていた理容室を利用するなど、なじみの関係を継続できるように支援している。また、町民運動会などへ参加してもらい、地域の顔見知りの方々との交流が持てるようにしている。	入居前から通っていた馴染みの床屋へ定期的に通えるよう支援したり、利用者の日用品購入のため、近隣のスーパーへ買い物に行くなど馴染みの関係を継続している。町内運動会にも参加し地域との交流も大切にしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行えるようにサポートする等行っている。その都度、利用者の気分の状態に合わせて利用者同士が気分を害せず過ごせるようにサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も電話などで連絡し、状況の確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面談にて思いや意向の把握に努めている。日々のケアの中で本人の思い、意向をくみ取るように努めている。	散歩や日常の何気ない会話から利用者の思いや意向を把握するよう心掛けている。利用者と信頼関係ができていく職員が直接、要望等を聞いている。意思の表出が困難な方は表情等から汲み取ったり、家族から話を聞き把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面談や、日常での会話の中、ご家族からの情報収集を行うなどし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士のコミュニケーションや、申し送りなどを通し日々の心身の状態の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状況の変化などあれば、家族や主治医に積極的に話し合い、相談するように努め計画に反映できるように努めている。	介護計画は6ヶ月に1回見直しし利用者本人や家族の意見を取り入れて作成している。介護計画に沿ってケアを実践できるように職員が話し合いを持ってるようにしている。状態変化時は、その都度アセスメントや介護計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の活動内容を個別に記録し、気づいた事などを申し送りを通し職員間での情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応できないときの病院への送迎などを行える範囲で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物などで外出支援を行ったり、誕生日に職員と外食に出掛けるなど楽しんでもらえるように努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、以前からの主治医に見てもらおうようお願いしている。状況により、往診対応が出来るかかりつけ医を紹介することもある。	かかりつけ医を継続して家族対応で受診されている方や往診に変更された方は4週間に1度来てもらっている。受診記録も文書でもらい職員と共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、所属する看護師はいないが、相談することのできる看護師が複合施設内の他事業所にいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて情報交換に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、取り組んでいる。	終末期においての方針を入居時に本人や家族に説明、状態変化時にも説明し同意を得ている。現在、家族からの希望があり、終末期に向けた指針を明文化しているが、医療との連携がまだ準備段階の為、本格的に動けていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法の勉強会を通し把握に努めているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っているが、地域との協力体制は築けていない。	昼夜想定避難訓練を年2回行っている。実際に階段で車いすを使って避難したり、津波訓練の後、実際夜7時から火災訓練を行った。備蓄も3日分準備され、水はタンクがある。避難訓練時に地域の方々にも周知し参加出来るように期待したい。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉を選びながら対応している。	トイレやお風呂でドアをきちんと閉めたり、排泄時に大きな声で確認したりしないよう気を付けている。一人ひとりに合わせた話題や声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ、傾聴し出来る限り本人の希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行える範囲で個人のペースに合わせてケアを行ったり、本人の行いたい活動を優先し行ってもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の心身の状況に応じ対応を変え対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り等で、本人の食べたい物等を一緒に作ったり、一緒に育て収穫した野菜などの作物を料理に取り入れる等工夫している。	昼はデイサービスの厨房より運び、配膳を行っているが朝、夜は事業所で作っている。おやつを作るときは利用者も一緒に収穫した野菜を利用したかき揚げやヒラヤーチーを作っていたりしている。イベント時にバイキング形式で食事したり、ベランダでバーベキューやかき氷屋さんを開いてデイサービスからお客さんをお迎えしたりしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分チェックを行い職員が情報を共有し積極的に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回、必要に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに応じた対応を心掛けている。	日中はなるべくトイレで排泄ができるように、一人ひとりのパターンに合わせ介助の時間などを工夫し支援している。利用者への言葉かけや羞恥心に配慮しながら排泄の自立を支援し、夜間は、おむつ使用やポータブル使用している方もいる。排泄チェック表を活用し、排便の有無を把握、水分摂取や運動、食事にも気をつけ、気持ちよく排便ができる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の体質に合わせてヨーグルトなどを積極的に摂取してもらっている。 又、状況を日頃から主治医に報告し、下剤などの調整を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日や、時間帯は設定されているが、最終的な判断は本人に行ってもらっている。しかし、拒否が続く時などは根気よく声かけを行い対応している。	入浴は基本的に週2回だが、希望があればいつでも入れる。ほとんどが男性職員のため同性介助が無理なこともあるが、本人に確認をとって同意を得ている。脱衣所は暖房が完備され、夏は風の通りを作れる天窓があり温度や湿度管理できる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の状況により対応している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のチェック体制や、マニュアルを整えている。	薬のチェック体制マニュアルがあり、勤務帯により薬をセットしたり、飲ませたり、飲み忘れが無い様チェックしているが、飲み忘れ等がたまにあり、1時間後に気づいて飲ませたとしても、ヒヤリハット報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味活動を行ってもらう時間を毎日設けている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、職員の人数などに影響されることもあるが、出来る範囲で買い物など外出支援を行っている。 本人の希望で家族に協力を仰ぎ、外出する利用者もいる。	隣が公園になっており、散歩に出かけたり2階のベランダではプランター菜園で色々な野菜を育てている。ベランダまではスロープになっていて車椅子でも自由に行き来できる気持ちの良い空間となっている。おやつを買いに出かけたり、白髪染めシャンプーも買いに出掛けたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は自己管理してもらっている。買い物の際は、本人が自由に買い物出来るように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて家族と連絡が取れるように努めている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合った飾りをし、落ち着いて活動できるように取り組んでいる。	ホールは十分な広さはないものの、各自自分のお気に入りの場所で編み物をしたり、テレビを見たり、井戸端会議に花を咲かせる方もいる。ホールからベランダへは自由に行き来でき、車いすでも出られる様スロープになっている。ビルの2階にありながら緑化され、緑豊かなベランダになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所を制限せずに自由に居室や、ホールを使用してもらっている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などに、使い慣れたものなどがあれば自由に持ち込んでもらえるように対応している。	各居室に加湿付き空気清浄機、テレビ、ベット、タンスが備え付けられている。自分で編んだバックや作品を部屋に飾っている方、国体選手時代の写真を壁に貼っている方もいる。洋服の整理整頓を自分で行うおしゃれ好きな方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて環境整備に取り組んでいる。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は利用者、自治会長、行政、法人代表などのスケジュールを管理者が合わせて日程を決めているため、会議を開くことができない月もあった。会議では入所状況や活動状況、ヒヤリハット、事故等が報告されている。運営推進会議を年6回確実に進めるよう、日程を固定するなどの工夫が望まれる。	年6回以上、確実に進めるようにする。	隔月の第4水曜日に日程を固定して開催する。	0ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。